
凄く、ごった煮です。

鉦

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

凄く、ごった煮です。

【Nコード】

N8063M

【作者名】

鉞

【あらすじ】

生まれ変わった世界は遊戯王ベースのごった煮世界？ しかもデツキがこれ！？

プロローグ（前書き）

主人公のデッキはオリカが満載だぜ！

プロローグ

やあやあ皆はじめまして。俺の名前は田中太一、ごくごく普通の転生者だ。ああ、うん言いたいことは解る、別に頭がおかしいとかじやない、かといってテンプレのように神様の手違いとかでもない…
…筈だ。転生者つても単純に前世の記憶があるからそう自称してるだけだしね。そんな俺の生まれた世界なんだがどうにも遊戯王の世界に酷似した世界のようなのだ。職業プロデュエリストなんてのがあるんだからそう思わずにはいられない。でもまんま遊戯王の世界ではないようだ。その理由は今俺の横にいる少女の存在だ。

「見てみて太一君、おっきなお山」

「そうだね桃香」

少女の名前は桃香といい、真・恋姫無双というゲームの劉備そっくりなんだ。他にもテレビではランカ・リーやラクス・クラインというアイドルがいた。つまりこの世界は遊戯王を基盤にしたこった煮世界なんだ。ま、だからどうしたと言う訳じゃないけどね。

「ねえねえ太一君、デュエルしよ」

とてとてとデッキを持って駆け寄ってくる桃香、その姿にほんわかしながら俺はこの世界で生きるのも悪くないと思った。

そしてそれから数年後、桃香と共にデュエルアカデミア入学試験に向かい、車に跳ねられた。猫を助けようとしていた桃香を助けた結果だ、薄れ行く意識の中で俺の名前を必死に叫ぶ桃香をどこか滑稽に思った。そして、俺が次に目を覚ましたのはこの日から一年半後、脳死判定が下される直前だった。

プロローグ2

意識不明からなんとか脳死判定前に覚醒した俺はリハビリの日だった。一年半も動かなかった訳だから筋肉が緩みきっているのだ、そんな毎日を送っていた俺の所に来た人物、正直驚いた、なんでこんな有名人がという気持ちで一杯だった。呆然としている俺に笑みを浮かべその人物は口を開いた。

「ハロー、太一ボーイ」

胡散臭い日本語で俺に挨拶してきた男、この世界で遊戯王を産み出した張本人、ペガサスさんがそこにいた。

話を聞いたところによると俺をひいたのはI&I社の社員らしい、ペガサス社長は俺の意識が戻ったと聞きやって来たそうだが忙しいペガサス社長がわざわざそんなことの為に来日とかいいのかと思ったが別の用件もあったらしい、それが、

「ドウゾ受け取って下サイイ」

「へ?」

ペガサス社長が渡してきたのは遊戯王のカード、何でも親父が俺をひいたI&I社社員に俺だけのカードを作れと無茶振りしたらしい、普通なら無茶だろうが居合わせたペガサス社長が即OK、俺が目を

覚ましたら渡すということになっていたらしい。

「無駄に成らず幸いデース」

そう言つて笑うペガサス社長、しかし俺は渡されたカードに固まっていた。一番上のカード、そこに書かれていたモンスターは、

『轟竜 テイガ・レックス』

思いつきりモンハンのモンスターでした。他のカードを見てもモンハンのモンスター、もしくはそれに関連するカードだった。

「それと太ーボーイ、ユーはデュエルアカデミアに行く気がありませんか？」

「えつと行けるなら行きたいですけど、年齢的に無理では？」

「ノープロブレム、ユーは不慮の事故で入学試験を受けられなかっただけデース。海馬ボーイも了承してくれマーシタ」

「ま、マジッスか」

「オフコース、勿論デース」

そんなこんなで次のデュエルアカデミア入学試験を受けることが出来るようになりました。後半年、俺はリハビリとモンハンカードを使いこなす為の訓練に勤しんだ。

プロローグ2（後書き）

とりあえずプロローグは終了。カードの紹介は改めて。

轟竜 テイガ・レックス 狩人の咆哮

あの日から半年、リハビリも終わり遂にこの日がやって来た。

デュエルアカデミア入学試験、海馬ランドで行われる実技試験に俺は来ていた。先日行われた筆記試験、結果は上々、18番という全体的には上の方だった。

そして始まった実技試験、番号が早い者から順番に行っていく。てかあの一番って三沢じゃね？ そんなこんなで俺の番がやって来た。

「受験番号18番、ステージに上がりなさい」

「はい」

デュエルディスクにデッキをセットしステージに上がる。勿論相手は普通の試験官である。クロノスとかは主人公やオリ主に任せます。

「では始めよう」

「よろしくお願いします」

こうして、俺のアカデミア入学をかけたデュエルが始まった。

「先攻は譲ろう」

「では、ドロー」

ドローしたカードと手札を見て考える、この手札なら先攻で問題ないか。

「俺は『ポポ（攻0／守2000）』を守備表示で召喚、更にカードを二枚伏せターンエンドです」

太一

手札三枚

場

ポポ（守）

リバース二枚

「ふむ、もつと強気でもいいぞ。私のターン、ドロー。私は『不屈闘士レイレイ（攻2300／守0）』を攻撃表示で召喚。レイレイでポポを攻撃する」

不屈闘士レイレイ攻2300

VS

ポポ守2000

「させませんよ、リバーズカードオープン。『エネミーコントローラー』、このカードの効果でレイレイを守備表示にします」

レイレイの攻撃がポポに当たる直前コントローラーが出現しレイレイを守備表示にした。

「ならば私はターンエンドだ」

試験官

手札五枚

場

不屈闘士レイレイ（守）

リバーズ無し

「俺のターン、ドロー」

引いたカードは、よし！ これでかつる。

「手札から魔法カード『獰猛な狩人』を発動、フィールドにポポがいる場合これを生け贄に手札から『轟竜 ティガ・レックス（攻2600/守2000）』を特殊召喚します」

魔法カードの発動と共に上からティガが降ってきてポポを下敷きに

した。そして咆哮を上げ試験官を睨み付ける。

「八星モンスターを生け贄一体で召喚だと！？ それにそのモンスターは」

「いきます、ティガでレイレイを攻撃！」

ティガ・レックス攻2600

VS

レイレイ守0

ティガがダンプカーのように突進しレイレイを吹き飛ばす、

「ティガは守備モンスターを攻撃したとき上回っている攻撃力分のダメージを与えます」

「何！？」

試験官

LP4000 1400

「そしてティガは戦闘によりモンスターを破壊した場合バトルフェイズ中にもう一度攻撃することが出来ます」

「ということは」

「これで終わりです、ティガでダイレクトアタック！」

「ぐおお！」

試験官

LP14000

「見たことないモンスターだったがよく使いこなしているな」

「ありがとうございます」

この時俺は気付いていなかった。見たことないカードを使い且つ何気にワンキルを決めた俺に集まっていた注目に。

「見たことないカードだったのだー」

「それだけではない。ああ綺麗に決まったが見たところ先程のモンスターは手札からしか召喚できないのだろう、引きが強いと言うこ

もあるのだろう」

ポニーテールの少女と短髪の少女が先程の太一のデュアルの感想を言う。そこにまた一人、桃色の髪の少女がやって来る。

「愛紗ちゃん、鈴々ちゃん」

「桃香ちゃん遅いのだ」

「いめん」

「桃香さんまた寝坊ですか？」

「うっ、目覚ましセットし忘れちゃって」

「桃香ちゃん凄い人がいたのだ」

「試験官にワンターンキル、それに見たことのないモンスターを使っていました」

「ほえっ凄い人だね、どんな人？」

「えっと、あれ？ いないのだ」

「む、本当ですね」

この時太一はトイレにいった。

「まあ、あのデュアルなら合格は確実でしょう。アカデミアでまた会うこともあるでしょう」

「それもそうなのだ」

こうして、なにやら波乱を感じさせる俺の遊戯王生活が始まった。

轟竜 テイガ・レックス 狩人の咆哮（後書き）

カード紹介

ポポ

地属性

獣族

星3

攻撃力0

守備力2000

効果

無し

轟竜 テイガ・レックス

地属性

ドラゴン族

星8

攻撃力2600

守備力2000

効果

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が越えていればその数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊した場合、もう一度だけ続けて攻撃することができる。

このカードが戦闘を行なったターンのエンドフェイズにこのカードは守備表示になる。

獰猛な狩人

通常魔法カード

自分フィールドにポポがいる場合のみ発動可能、自分フィールド上のモンスターを全て生け贄にし手札から『轟竜 テイガ・レックス』一体を特殊召喚する。

以上です。次はクック先生がでるよ

水竜 ガノトトス 異次元タツクルの恐怖

デュエルアカデミア入学試験から数日、俺はアカデミア行きの船に乗っていた。試験は合格、寮はライエローとなった。

「ライエローか、正直空気じゃね？」

三沢とか以前にライエローそのものが空気じゃないだろうか？
ライエローでまともにアニメに出たのって三沢と物真似と剣山くらいだよな。まあさつき遊戯十代っぽい少年がいたし今俺と話してる少年は三沢大地って名乗った訳だから原作の開始時期で間違いないんだろうけど、ん？ 今話してる相手？ だから三沢だよ三沢、原作アニメで向こうの世界に残った三沢。

「どうかしたか？」

「いやいやなんでもないさ」

「そうか？ それはそうと太一は見たことないカードを使うんだな」

「まーな」

案の定聞かれたな、まあ別に隠すようなことでもないし、説明しておくか。

「二年くらい前にちよつとした事故にあつたんだよ。その時俺をひいたのがI&Iの社員だったんだ。んで意識不明の俺に錯乱した親父がその社員に俺専用のカードを作れつて無茶振りしたんだよ。普通は通らない話なんだが偶然居合わせたペガサス社長がOKだしてさあ大変、結局俺が目覚めるまでその社員とペガサス社長はカード作り続けてくれたんだよ」

「それはまた凄いな。因みにどのくらい意識不明だったんだ？」

「一年半、医者の話じゃ目が覚めるのが一日遅かったら脳死判定出てたつてさ」

「そ、それはまたギリギリだったな」

「全くだな」

はっはっはつと笑う俺に笑い事かと呆れる三沢、てかデュエルアカデミアって桃香いるんだっけ？ 連絡いつてたっけ？

「ま、なるようになるか」

さて、新しい学園生活を楽しめますか。
の、はずだったんだが。

「ふえ、ふえええ」

「おまえ、桃香に何をした!？」

泣き崩れる幼馴染みと俺の胸ぐらを掴むイケメン、桃香の傍にいる
二人の女の子も桃香を宥めながら俺を睨んでいる。

「いや、何もしてないんだが」

「嘘つくんじゃない！何も無くて桃香が泣くか!」

因みに本当に何もしてない、廊下を歩いていたらところで桃香とぶつ
かるというベタな再会をしたわけだ。所が桃香は俺が意識不明から
目覚めたことを知らなかったのだ。そして俺が本物と知ると泣き出
してしまいそこにやって来た桃香の友人らしき男に絡まれたという
わけだ。

「あくまでも知らないっていつのか」

「事実この場で俺は何もしてないし」

「だったらデュエルだ！俺が勝ったら桃香に謝れ！」

「こっちが勝ったら？」

「その時は土下座でも何でもしてやるよ」

イエローがブルーに勝てればなと続ける男、少しカチンときた俺は普段使っているティガメインのデッキではなくややえげつないほうのデッキを取り出した。

「行くぞ！『デュエル』」

「先攻は譲ってやる」

「はいはい、ドロー」

ドローしたカードを手札に加え吟味する、まあ何とかなるか。

「『怪鳥 イャンクック（攻1900/守800）』を攻撃表示で召喚、更にリバーズカードを三枚セットしターンエンド」

太一

手札二枚

場

怪鳥 イャンクック（攻）

リバーズ

三枚

「俺のターン、ドロー！ 手札から『切り込み隊長』を攻撃表示で召喚、さらに切り込み隊長の効果で手札から二枚目の『切り込み隊長』を特殊召喚する」

「切り込みロックですか」

「その通りだ。更に永続魔法『連合軍』を発動、このカードの効果により俺のフィールドにいる戦士族、魔法使い族モンスター一体につき戦士族モンスターの攻撃力は200ポイント上昇する！」

切り込み隊長×2

攻撃力

1200 1600

「まだそのモンスターは倒せそうにないか、カードを一枚伏せてターンエンド」

ブルー生徒

手札二枚

場

切り込み隊長（攻）×2

連合軍（永魔）

リバーズ

一枚

「俺のターン、ドロ」

ドロカードは……むう、状況を打破出来るカードじゃないか。

「手札から永續魔法『トレニヤー』を発動、メインフェイズにライフを払い払ったライフによってデッキからカードを一枚手札に加えます。ライフを300払いレベル4以下のモンスターを手札に加えます。そしてそのまま加えたモンスター『盾蟹 ダイミョウザミ（攻600/守2000）』を守備表示で召喚。ターンエンド」

太一

LP3700

手札二枚

場

イヤンクック（攻）
ダイミヨウザザミ（守）
トレニヤ（永魔）
リバース
三枚

「へへ、手も足も出ないってか？ 俺のターン、ドロ。手札から『コマンド・ナイト』を攻撃表示で召喚、コイツの効果と連合軍の効果で戦士族モンスターの攻撃力はさらに600ポイント上昇するぜ」

切り込み隊長×2
攻撃力
1600 2200
コマンド・ナイト
攻撃力
1200 2200

「バトル！ 先ずは切り込み隊長でその蟹を攻撃！」

切り込み隊長
攻撃力
2200
VS
ダイミヨウザザミ
守備力
2000

「ダイミヨウザザミ撃破！ 続いて二体目の切り込み隊長でその鳥を攻撃だ！」

「残念ですがさせませんよ。速攻魔法『月の書』を発動、コマンド・ナイトを裏側守備表示にします。これにより切り込み隊長の攻撃力は1600まで減少します」

「げっ」

切り込み隊長

攻撃力

2200 1600

VS

イャンクック

攻撃力

1900

ブルー生徒

LP4000 3700

「切り込み隊長撃破。更に切り込み隊長が場から消えたことにより残った切り込み隊長の攻撃力が減少します」

切り込み隊長

攻撃力

2200 1600 1400

「くそつ、カードをセットしてターンエンド」

ブルー生徒

手札一枚

場

切り込み隊長（攻）

コマンド・ナイト（裏守）

連合軍（永魔）

リバーズ

二枚

「俺のターン、ドロ」なにをしてるの!？」、「ー、ん？」

カードをドロしたところで声を掛けられた振り向くとそこには、

「た、高町さん」

リリカルなのはの高町なのはがそこにいた。まあもう驚かないよ、予想出来てたことだし、

「今日は歓迎会があるんだよ、もうすぐ始まっちゃうよ!」

「ま、待ってくれ高町さん。こいつは桃香を泣かしたんだよ、それを謝らないから俺が」

「桃香ちゃんを泣かした?」

「つい、と高町さんが桃香の方を見ればしゃくりあげている桃香の姿が、

「一刀くん」

「は、はい!」

「やっちゃって!」

「おう!」

勘違い一人追加、殺気を滲ませながら一刀と呼ばれたブルー生徒に
凄む高町さん、てかこいつ恋姫の主人公か。

「盛り上がってるところ悪いんだが、もう終わりですよ?。」

「何だと!?。」

「トレニヤーの効果を発動、ライフを1000ポイント払いデッキから魔法カードを手札に加える」

太一

LP 3700 2700

「そしてイャンクックを生け贄に『水竜 ガノトトス（攻2200 / 守1800）』を攻撃表示で召喚」

「それで? それだけじゃ勝てないぜ」

「だな、更にフィールド魔法『海』を発動。ガノトトスの攻撃力守備力が200上昇する」

ガノトトス

攻撃力

2200 2400

守備力

1800 2000

「更にガノトトスはフィールドに海がある場合相手プレイヤーに直接攻撃できる」

「な、でもまだ」

「リバースカードオープン、『怒り状態』、このカードは自分のライフが相手より少ないときに発動できる罠・装備カードだ。装備したモンスターの攻撃力は自分と相手のライフの差だけ上昇する。」

「俺のライフは3700でお前のは2700」

「つまり1000ポイントアップだな。ガノトトスに装備する」

ガノトトス

攻撃力

2400 3400

「こ、攻撃力3400!？」

「バトル、ガノトスでダイレクトアタック」

「うおおお……なんてな、トラップカード発動！『炸裂装甲』！
ガノトスを破壊する」

「残念、カウンタートラップ『神の宣告』を発動、ライフを半分に
してカードの発動を無効化する」

太一

LP 2700 1350

「ライフが減ったから怒り状態の効果でガノトスの攻撃力は更に
上昇する」

ガノトス

攻撃力

3400 4750

「う、うわあああ！」

一刀

LP 3700 0

それからどうなったかというと、

「一刀くんものはちゃんも早とちりしすぎたまよ！」

腰に手をあて私怒ってますとアピールする桃香とその前に正座している一刀と高町さん、睨んでいたが実害はなかった他二名は桃香の後で手をあわせている。

「桃香さんその辺で」

「うゝ、でも愛紗ちゃん」

「まあ俺は気にしてないし、歓迎会もう始まるぞ？」

「むゝ、太一君がそういうならいいけど」

むくれつつも二人への説教を止める桃香。

「あ、そうだ太一君。PDAの番号交換しよ」

「いいぞ、ほれ」

桃香とPDAの番号を交換しその場を離れる。歓迎会に遅刻したのは言うまでもなく、その日の晩は桃香からひっきりなしメールが来たことを三沢にかかわれた。

水竜 ガノトトス 異次元タツクルの恐怖（後書き）

カード紹介は次の投稿時に、多分容量足りない

水竜 ガノトトス でのカード紹介（前書き）

水竜 ガノトトス 異次元タックルの恐怖
で登場したカードの紹介です。

水竜 ガノトトス でのカード紹介

怪鳥 イャンクック

火属性

鳥獣族

星4

攻撃力1900

守備力800

効果

無し

ダイミョウザミ

水属性

水族

星4

攻撃力600

守備力2000

効果

フィールド上の『一角竜 モノブロス』が墓地に送られたときこのカードが手札または墓地にあるならフィールド上に表側守備表示で特殊召喚できる。

水竜 ガノトトス

水属性

海竜族

星6

攻撃力2200

守備力1800

効果

フィールドに『海』が出ているならこのカードは相手プレイヤーに直接攻撃することができる。

トレニヤー

永続魔法

1ターンの1度メインフェイズ1に以下の効果から1つを選び発動することができる。

ライフ300ポイント払いデッキから星4以下のモンスター1体を手札に加える。

ライフ500ポイント払いデッキから星6以下のモンスター1体を手札に加える。

ライフ800ポイント払いデッキから罠カードを1枚を手札に加える。

ライフ1000ポイント払いデッキから魔法カード1枚を手札に加える。

怒り状態

罠・装備カード

自分のライフが相手プレイヤーより少ない場合のみ発動することができる。発動後このカードは装備カードとなりモンスター1体に装備する。装備モンスターの攻撃力は自分と相手のライフの差だけ上昇する。このカードが発動したターンのエンドフェイズ時このカードを持ち主の手札に移す。

毒怪鳥 ゲリヨス&眠鳥 ヒブノック 死へ誘う双鳥

幼馴染みとの再会から数日、何故かブルーの人間からの視線が痛い。実害こそないが気持ちのいいものでもない、どうしてこうなったのかと首を捻っていた俺だが答えは割とすぐ知ることができた。

「おや？ 高町さん」

「え、あ、田中君」

偶然遭遇した高町なのは、傍には二人の女の子、しかしフェイトやはやてといった少女ではない。

「あんたが噂の王子様？ 普通ね」

「あ、アリサちゃん失礼だよ」

「王子様？」

アリサと呼ばれた少女の言葉に首をかしげる。というかこの二人はアリサⅡバニングスと月村すずかか？

「知らないの？」

デュエルアカデミアのビューティフル・イレブンの一人をかつさらっていった王子様だったので有名よ」

「そもそもビューティフル・イレブンって何だよ」

「ビューティフル・イレブンっていうのはこのデュエルアカデミアの11人のアイドル的な女の子のことだよ。桃香ちゃんはその一人で沢山の男子が狙ってたんだよ」

「あんたが何日か前にデュエルした北郷もその一人ね。特にアイツはもう少して桃香と付き合い始めるんじゃないかって言われてから悔しさも一層でしょうね」

話を聞くとところによるとだ。俺が事故った年は桃香はアカデミアの入学試験を受けなかったが状況が状況だけに来年の受験を許可された。本人は乗り気じゃなかったが俺の分までと両親に説得され受験、見事に合格し彼女はアカデミアに入りビューティフル・イレブンとやらにも数えられるようになったらしい。そしてアカデミアに入った後も事故の事を気にしていた桃香に声を掛けたのが北郷らしい。それまでも何人かが声を掛けていたらしいが全て遠回しに拒絶されたそう。北郷も最初はそうだったらしいが諦めずアタックするうちに話すようになったらしい。追い風と言っべきか、その頃

家は親父の都合で引っ越しをしなければならなかった。当然俺も引っ越し先にある病院に移ることになり桃香も落ち込んでいた中で北郷は支えになったのだろう。そして、後一步と言ったところでまさかの意識不明だった幼馴染みの回復、さらにはデュエルでも敗北+桃香に怒られるというコンボを喰らい、

『気になり始めた男の子』

から

『せっかく会えた幼馴染みに意地悪した男の子』

にランクダウンしたそうだ。ご愁傷様である。

「で?」

「で? とは?」

「とぼけんじやないわよ。桃香のことあんたはどう思ってたのよ?」

ふむ、桃香のことか。

「彼氏がいるなら良い友達に、いないなら」

「彼氏に？」

「それもいいかもな」

「」「」「おー」「」

キヤーキヤー言ってる高町さんたちを残し寮へ向かう。さてさてどうしたものの。

そしてその日の晩。

「何がどうなってるんだ？」

「誰っすか？」

「俺は知らねえ」

夜、俺は湖の上にいた。それも主人公組と一緒にだ。三十分前にPDAに桃香から切羽詰まったようなボイスメールが来た。それに従いここに来たんだが肝心の桃香はおらず居たのは主人公組と天上院

明日香と取り巻き二人、とりあえず、

「ライエローの田中太一だ。桃香に呼ばれて来たんだが」

「ああ、貴方が噂の」

「俺は遊戯十代、よろしくな！」

「いやいやアニキ、呑気に挨拶してる場合っすか!？」

主人公組からは挨拶を返されるが天上院さんまたそれですか。

「あ、太一くん」

とそこに桃香登場。後ろには先日の子二人、ていうか関羽と張飛がいた。で、話を詳しく聞いたところ。

「つまりその丸藤翔というレッドの生徒が女子寮の風呂を覗いた。このまま学校に突き出しても良いがデュエルで遊戯が勝てば見逃しても良い。しかし、ことの張本人がデュエルしないのはおかしい。でも2対2では引き分けになる可能性がある、3人目を出さそうにも既に呼び出しを送った後、どうするかと言うところで桃香が知り合いだからということ俺を呼んだ。こういうことでFA？」

「うう、その通りです」

シユン、とする桃香。昔から突っ走る癖があつたが治つてないか。

「そういうことは事前に了承を取りなさいって昔から言つてたよな」

「あう」

「はあ、まあ此処まで来たわけだし一応やるよ。そっちもいいか？」

「俺はいいぜ」

「よろしくお願いするっす！」

こうして始まつたデュエル、そういえば原作でこういうシーン有つたなと十代と翔のデュエルを見物する。結果は予想通り、十代は勝つて翔は負けた。そしてやって来た俺の番、相手は天上院の取り巻きのおっとりした方、

「次は私が相手です」

じゃなかった。関羽さんでした。

「えっと、桃香の友達の」

「愛紗といいます」

「丁寧にも、知ってるでしょうが田中太一です」

しかしこの人本当に関羽だろうか。いや、顔は同じなんだけど、なんとというか恋姫の関羽をボンキュボンとするとこの人はペタキュボンというかんじだ。年齢的には高校生、桃香も恋姫のプロポーシヨンだし。ふむ、

「まあいいか」

「何か？」

「こつちの話。では始めますか」

「そうだな、『デュエル』、私の先攻だ」

因みに先攻は片方が譲らない限り早い者勝ちである。

「手札から永続魔法『凡骨の意地』を発動。さらに『ジエネティック・ワーウルフ（攻2000/守100）』を攻撃表示で召喚。リバースカードを二枚セットしターンエンドだ」

愛紗

手札二枚

場

ジエネティック・ワーウルフ（攻）

凡骨の意地（永魔）

リバース

二枚

「俺のターン、ドロ。魔法カード『天使の施し』を発動、カードをドロし手札を捨てる。さらに『ポポ（攻0/守2000）』を守備表示で召喚。さらに永続魔法フィールド魔法『雪山』を発動する。」

カードをセットすると当たりが雪山になる、若干寒い気がするが気のせいだよな？

「雪山の効果によりお互いのエンドフェイズにお互いの攻撃表示のモンスターは攻撃力が100ポイント減少する」

「なんだと!？」

「さらにカードを一枚伏せターンエンド」

太一

手札三枚

場

ポポ(守)

雪山(フィールド魔)

リバー

一枚

ジエネティック・ワーウルフ

攻撃力

2000 1900

「くつ私のターン、ドロー。通常モンスターだ、凡骨の意地の効果によりさらにドロー、通常モンスターだよってドロー。ほう、」

ふむ、何かいいカードを引いたようだ。

「永続魔法『絶対魔法禁止区域』を発動、効果を持たないモンスター

「は魔法カードの影響を受けなくなる。残念だったな」

「あらま」

これは不味いか？ 雪山が無駄になってしまった。

「さらに魔法カード『古のルール』を発動、手札の『デーモンの召喚（攻2500/守1200）』を特殊召喚する」

愛紗さんのフィールドに現れるモンスター、これは不味いかな。

「バトル！ デーモンの召喚でポポを攻撃」

デーモンの召喚

攻撃力

2500

VS

ポポ

守備力

2000

デーモンの召喚の雷により黒焦げになるポポ、不謹慎だが旨そうだった。

「ジェネティク・ワーウルフをでダイレクトアタック！」

「く」

太一

LP4000 2000

「ターンエンド、どうやら決まったな」

「あわわ、アニキ」

「大丈夫だって翔、アイツはまだ諦めてない！」

「その通り、ターンエンドには少し早いですよ愛紗さん」

「何？」

「リバーズカードオープン『ダメージ・コンデンサ』、受けたダメージ以下の攻撃力を持つモンスターを特殊召喚します」

「ちっ」

「舌打ちはやめた方がいいぞ。手札を捨てデッキから『毒怪鳥ゲリヨス（攻1900/守1800）』を特殊召喚する」

「……ターンエンド」

愛紗

手札二枚

場

ジエネティック・ワーウルフ（攻）

デーモンの召喚（攻）凡骨の意地（永魔）

絶対魔法禁止区域（永魔）

リバーズ

二枚

「俺のターン、ドロー。手札から魔法カード『死者蘇生』を発動。蘇生するのはコイツです。『眠鳥 ヒプノック（攻2000/守1500）』を特殊召喚」

「攻撃力がデーモンにとどかないモンスターばかり並べて、なんのつもりだ？」

「こういうつもりです。まずゲリヨスの効果を発動、墓地の魔法カードを二枚除外して相手モンスターを全て守備表示にします」

死者蘇生と天使の施しを除外してゲリヨスの効果を発動、ゲリヨスが頭の鉋物と嘴を叩き合わせ閃光を発生させる。

「く、成る程これで破壊できると言っわけか」

「まだです。更にデッキの上から一枚を墓地に送りヒプノックの効果を発動、相手の表側守備表示モンスターの守備力を0にします」

ジエネティック・ワーウルフ

守備力

1 0 0 0

デーモンの召喚

守備力

1 2 0 0 0

「あれ、アニキ。元のままでも倒せるのに何で守備力を0にするんですか？」

「わかんねえ、けど俺今すっげえワクワクしてんだ」

「恐らく入学試験の時に使ったモンスターの為ね」

「明日香？」

「そつえば貴方は遅刻してたわね。でも丸藤君も知らないの？」

「う、実は入学試験の時緊張で自分の番までトイレにいたっス」

「行きます、ゲリヨスとヒプノックを生け贄に『轟竜 ティガ・レックス（攻2600/守2000）』を召喚」

「く（だがこのリバースカードの内一枚は『ジャスティ・ブレイク』、攻撃宣言すればヤツのモンスターは）」

「バトル、の前に手札の魔法カード『大嵐』を発動」

「……え？」

「む、ジャスティ・ブレイクか、危なかったな。けどこれで心置きなく攻撃出来るな、ティガで攻撃」

「く、私の負けだ」

愛紗

LP40000

「スゲーなお前、見たことないカードばかりだったぞ」

「ありがとうございますっス」

デュエルもこちらの勝利で終わり解散となる、そういえば別れ際に桃香がモジモジしてたがなんだったんだ？

毒怪鳥 ゲリヨス & 眠鳥 ヒプノック 死へ誘う双鳥 のカード紹介

毒怪鳥 ゲリヨス

風属性

鳥獣族

星5

攻撃力1900

守備力1800

効果

墓地に存在する魔法カード二枚を取り除く、そうした場合相手表側攻撃表示のモンスターを全て表側守備表示にする。

このカードが装備カードを装備しているモンスターを破壊した場合そのモンスターに装備されている装備カード一枚を選びこのカードに装備することができる。

眠鳥 ヒプノック

風属性

鳥獣族

星6

攻撃力2000

守備力1500

効果

デッキの上から二枚を墓地に送る、相手表側守備表示のモンスターの守備力を全て0にする。

雪山

フィールド魔法

このカードがフィールドに有る限りフィールドで表側攻撃表示で存在するモンスターの攻撃力は各エンドフェイズ毎に100ポイント

減少する。

暴君竜 ディアブロス 砂漠のマ王

湖での一件以来三沢を通じ主人公組と仲良くなった。十代とも何度かデュエルし勝ったり負けたりを繰り返している。そんな日々を送っていた俺達だったがある日を境に一部がよそよしくなった、正確には机にかじりついている。十代や桃香と首をかしげていたが愛紗さんが理由を教えてくれた。

「えつと三人共もうすぐ月一試験ですよ」

「「おお!?!」」

「あ」

月一の昇降試験、それが直ぐ近くまで来ていたのだ。

「忘れてた」

「俺も」

「ど、どうしよう。全然勉強してないよ」

焦り始めた桃香を愛紗さんに引き渡し寮に戻る。

「大地、教えてくれてもよかっただろ」

「いや気付いてないとは思わなかった」

「まあいいや、さてどれを使うか」

「そういえば太一もデッキを複数使ったな」

「まあな、最近はティガばかりだったからな」

「これはどういうデッキなんだ？」

「それか？ それは」

三沢の手にしたデッキ、その特徴を説明する。一通り説明した後三沢は、

「この古龍種だったか、効果がどれも強力だな」

「出しにくいけどな、その分出れば場を制圧できる」

まあこれはまだいいかとケースに古龍デッキを戻す。残ったデッキは3つ、取りあえず適当に取ったデッキを使うかと手を伸ばす、掴んだのは、

「おやおや」

これか、まあこいつなら早々敗けはしないか。

「デッキはこれでよし、後は適当に勉強しますか」

「本当に適当だな」

呆れる三沢をほっといてノートを取り出す。テストなんて物は日々の授業からしか出ないのだ。

そして当日、

「筆記はどうだった？」

「バツチリだな」

「寝てた！」

「アニキ、そんな胸はって言うことじゃないっスよ」

「わ、私はまあまあかな」

「あれだけやってまあまあですか」

「鈴々もまあまあなのだ」

様々な筆記試験の感想を述べながら次の実技に備える、と、ここで翔があることに気付いた。

「あれ、そういえば他の人達はどこっスか？」

「購買だな、確か今日は新しいパツクの発売日だ」

「そうなのか！？ 行ってみようぜ翔」

「あ、待ってアニキ」

駆けていく十代と翔、

「大地は行かないのか？」

「俺は自分のデッキを信じてるからな、そいつはお前はどんなんだ？」

「それこそ今更だよ、俺のデッキは知ってるだろ」

「違うない」

そんな感じで三沢と話してる俺を頬を膨らませ見ている桃香、何故？
そして始まった実技試験。相手は何故かブルーの生徒、しかもだ、

「止めてよね、僕が本気でデュエルしたらイエローが勝てるわけないじゃないか」

キラ君でした。大方機械族デッキってところだろうか？

「『デュエル！』僕のターンだ。ドロー」

さてさて、どんなデッキかな？

「手札から『グリーン・ガジェット（攻1400/600）』を攻撃表示で召喚、効果でレッド・ガジェットを手札に加えるよ。更にリバーズカードを二枚セットしてターンエンド」

キラ

手札四枚

場

グリーン・ガジェット（攻）

リバーズ

二枚

「俺のターン、ドロー」

引いたカードは、……あらら、

「手札からフィールド魔法『砂漠』を発動、効果によりフィールドに通常召喚されたモンスターは召喚されたターンには攻撃できない」

「ふーん、でもそれって君も困るんじゃない？」

「そうですね、ああ後砂漠がフィールド上に有る限り水族、または機械族モンスターの効果は無効化されます」

「何だって!？」

「いやいや助かりましたよ、更に『ランゴスタ（攻8000/8000）』を守備表示で召喚」

さてさて、まだまだこれからだしここはコレかな？

「リバースカードを二枚セットしターンエンド」

太一

手札二枚

場

ランゴスタ（守）

砂漠（フィールド魔）

リバースカード

二枚

「僕のターン、ドロー。『レッド・ガジェット（攻13000/守1

500)』を守備表示で召喚」

「イエローは探せませんね、ご愁傷様です」

「くそつ、グリーン・ガジェットでその虫を攻撃だ」

グリーン・ガジェット

攻撃力

1400

VS

ランゴスタ

守備力

800

「そんな貧弱なモンスターじゃ壁にしかないよ」

「知ってますよ」

「ふん、カードを伏せターンエンド」

キラ

手札三枚

場

グリーン・ガジェット(攻)

レッド・ガジェット(守)

リバー
ス
三枚

「俺のターン、ドロー。更にスタンバイフェイズに墓地のランゴスタの効果を発動、自分フィールド上にモンスターがいない場合守備表示で特殊召喚する」

「面倒な虫だ」

「それはどうも、さてランゴスタを生け贄に『暴君竜 デイアブロス（攻2400/守1200）』を攻撃表示で召喚」

「そんなモンスター召喚したって自分の魔法カードの効果でこのターンは攻撃できないじゃないか」

「甘いな、デイアブロスは魔法カードの影響を受けない。よってバトルだ、グリーン・ガジェットを攻撃」

デイアブロス

攻撃力

2400

VS

グリーン・ガジェット

攻撃力

1400

「うわぁ」

キラ

LP 4000 3000

「ターンエンド」

太一

手札二枚

場

ディアブロス（攻）

砂漠（フィールド魔）

リバー

三枚

「くそ、ドロー。……よし！ 手札から速攻魔法『サイクロン』を発動、そのフィールド魔法を破壊だ！」

発生した渦に砂漠が散る。まあ十分仕事はしてくれたか。

「更にリバーカード『血の代償』を発動、手札から『イエロー・

ガジェット（攻1200／守1200）を召喚、グリーン・ガジェットを手札に加え血の代償の効果で召喚、効果でレッド・ガジェットを手札に加える」

キラ

LP 3000 2500

ガジェットが三種類揃った。となると、

「そして永続罫『機動砦・ストロング・ホールド』を発動、効果で攻撃力は3000だ！」

守備表示だかな。

「そしてもう一枚のリバースカードオープン、『最終突撃命令』を発動、フィールドに表側表示で存在するモンスターは攻撃表示になる」

いやいや、なんでそんなカードいれてんだよ？ エネコンとか有るだろ。

「バトルだ！ ストロング・ホールドでディアブ羅斯を攻撃！」

ストロング・ホールド

攻撃力

3000

VS

ディアブロス

攻撃力

2400

「これで終わりだ、手札から速攻魔法『リミッター解除』を発動、機械族モンスターの攻撃力は倍になる！」

「げ」

ストロング・ホールド

攻撃力

3000 6000

「ぐおお」

太一

LP 4000 400

「ぐ、リバースカードオープン『部位破壊』、戦闘で破壊されたモンスターを攻撃力、守備力を500ポイント下げ破壊を無効にする」

ディアブロス
攻撃力 2400 1900
守備力 1200 700

「は、無駄な足掻きだね。グリーン・ガジェット、トドメだ！」

グリーン・ガジェット
攻撃力 2800
VS
ディアブロス
攻撃力 1900

「甘いのはそっちだ、リバーズカードオープン、『怒り状態』。俺とアンタのライフの差だけディアブロスの攻撃力は上昇する」

キラ
LP 2500

太一

LP 400

ディアブロス

攻撃力

1900 4000

「何だつて!？」

キラ

LP 2500 1300

「これによりディアブロスの攻撃力は減少する」

ディアブロス

攻撃力

4000 2800

「ま、それでも残りのガジェットよりは高いけどな」

「カードを一枚伏せターンエンド」

「エンドフェイズにリミッター解除の効果を受けたモンスターは破

壊、一気にから空きだな」

「ふん、それでも勝つのは僕だ」

「どうだろうな。ああそちらのエンドフェイズに怒り状態は手札に戻る」

ディアブロス

攻撃力

2800 1900

キラ

手札一枚

場

最終突撃命令（永罨）

血の代償（永罨）

リバース

一枚

「俺のターン、ドロー」

うん、これで終わりかな。

「手札にいる『片角のマ王 デイアブロス（攻3500／守1000）』の効果を発動、このカードは部位破壊を装備しているデイアブロスを生け贄にし特殊召喚できる」

「攻撃力3500!？」

「オーバキルかもしれないが血の代償でレッド・ガジェット出されても面倒だしな。バトルだ、デイアブロスでダイレクトアタック」

「甘いんだよ！ リバースカードオープン、『聖なるバリア・ミラーフォース』を発動、そいつを破壊だ!」

「残念、マ王様は戦闘でしか破壊できない」

「そんな、僕が、この僕が!？」

キラ

LP13000

「勝利!」

いやー危なかった危なかった、マ王様来なかったら負けてたね。
…

…でだ、

「あうゝ、負けちゃったよ」

傍でうつむいてる幼馴染みをどうするか、あ、そうだ。

「桃香、桃香のデッキって昔と同じか？」

「ふえ？ 流石に全く同じじゃないけど主要なカードは同じだよ」

「つまり、獣族なんだな？」

「うん」

ならよかった。そういえば桃香に渡そうと思ってたカードが有ったんだ、すっかり忘れてた。

「ほれ、これをあげよう」

「い、いいの？」

「無問題、元々あげるつもりだったからな」

「ありがとう！」

向日葵のような笑顔を向けてくる桃香、喜んで貰えて何よりだ。

「えっと『幻獣 キリン』か、大切にするね！」

「ちゃんとデッキにいれるよ」

暴君竜 デディアブロス 砂漠のマ王 のカード紹介

ランゴスタ

風属性

昆虫族

星3

攻撃力800

守備力800

効果

自分ターンのスタンバイフェイズ開始時に自分フィールド上にモンスターが居ない場合このカードを表側守備表示で特殊召喚する。

暴君竜 デディアブロス

地属性

ドラゴン族

星6

攻撃力2400

守備力1200

効果

このカードは魔法カードの効果を受けない。

片角のマ王 デディアブロス

地属性

ドラゴン族

星8

攻撃力3500

守備力1000

効果

このカードは通常召喚出来ない。フィールド上の『部位破壊』を装

備したディアブロスを生け贄にしたときのみ特殊召喚することができる。

このカードは戦闘でしか破壊されずカードの効果の対象にならない。
砂漠

フィールド魔法

通常召喚されたモンスターは召喚されたターン攻撃できない。

このカードがフィールド上に有る限り水族、機械族は効果が無効になる。

部位破壊

罨・装備カード

戦闘で破壊されたモンスターに装備可能、攻撃力と守備力を500ポイント下げ破壊を無効にする。このカードを装備しているモンスターの効果は無効になる。

火竜 リオレウス & 雌火竜 リオレイア 番の絆

月一試験を乗り切り一段落した学生としての生活、学園内は徐々に学生からデュエリストに戻る者が増えはじめていたころの話だ。

「廃寮？」

「ああ、昔使われてたらしい。今は立ち入り禁止らしいがな」

三沢が昼飯時にそんなことをいう。何でも十代から聞いたとか。

「で？」

「太一、あの十代がそんな話を聞いて大人しくしてると思うか？」

「……無理だな」

絶対に行くだろアイツは、

「廃寮に入ったことがばれたら退学だ。俺はまだアイツと決着を付けてない」

「廃寮に入る前に捕まえる?」

「流石だな、その通りだ」

まあ俺としても十代がいなくなるのは面白味が減ってしまう。それは歓迎できない、そういうわけで廃寮近くに向かったのだが、

「遅かったな」

「……あの馬鹿」

チラリと廃寮に入っていく人影が見えた、赤い服が見えたから多分十代達だろう。

「どうする?」

「む」

頭を捻り考えている三沢、その頭脳が何か案を出す前に、

「お前達、そこで何をしている！」

人が来た、振り返るとそこに立っていたのは、

「夜一先生」

デュエル史（歴史は浅いが内容は濃い）担当教員の四楓院夜一先生がいた、うん、ブリーチの夜一さん、この世界って所々に見覚えのある人がいて困る。

「お前達、ここから先は学生の立ち入りは禁止じゃぞ」

「知ってますよ、たださっき入っていく人影が見えた気がしたんでどうしたものかと」

「何？」

「お、おい太一」

三沢には悪いが十代達の事を言う。

「ソレが事実としてお主らはなぜここへ？」

「ちょっと好奇心旺盛な知人がこのことを知ったらしくて、友人が退学になるかもしれないんですからもし会えば止めようと思いついて」

「嘘はないようじゃな、でその友人とやらがさっき言っとった奴か？」

「それは確認できませんでした」

「そうか、ま、後は儂に任せることじゃな」

「……………お願いします」

「なあにあの校長じゃ、案外デュエルで許されるかもしれんぞ」

ああ、それは有りそうだ。ていうか制裁タッグデュエルするんだっけ？

そしてそれから数日後、廃寮の一件によりプロデュエリスト迷宮兄弟とデュエルすることになった十代と翔だったが見事に勝利し退学を免れる、これで終われば良かったんだが、

「田中太一ってのはドイツだー！」

突如乱入してきた黒髪の女性、あの広いデコと蝶の眼帯、ああ元讓さんか。

「待て姉者、いきなりで皆が戸惑っている」

次いで現れたのは妙才さんかな？ 夏侯姉妹がここですか。

「は、春姉さんに秋姉さん！？」

と、何気に近くにいた北郷が立ち上がる。あの二人と親しいってことはコイツ魏ルートの北郷か？

「おお一刀、そこにいたか。で、田中太一ってのはドイツだ？」

「いやいやいや、それ以前に何で姉さん達がいるんだよ！？」

「それは私が説明しよう」

そついい妙才さん、秋蘭さんが話始める。

ことの始まりは俺と北郷のデュエルまで遡る、そのデュエルで

負けたことをコイツは元讓さんこと春蘭さんに話したそうだと。当初は北郷が私以外に負ける訳がないと喚いていた春蘭さんだったが秋蘭さんの説明によりようやく北郷の負けを理解した、したのだが今度は私が敵を討つといいだしたのだ。行動力が人一倍ある春蘭さんは早速アカデミアに乗り込み現在に至ると言うわけだ。

「迷惑な話だ」

「む、何だお前は！」

ため息を吐いていると春蘭さんの矛先が俺に向く、そして、

「あゝ、春姉さん、そいつが田中太一だ」

「何！？」

北郷の余計な一言によりギリギリとした目で俺を見る春蘭さん、俺は校長に助けを求めようとし、

「面白そうですね、良いでしょう」

絶望した、ハハハもういい。もういいんだ。

「だ、大丈夫か太一？」

「大地、俺はもうだめだ」

「太一？ 何を言ってるんだ太一！？」

「^いこ^ちや^いこ^ちや 言わずにトットと来い！」

春蘭さんに首根っこを掴まれ連行される。その時の俺の顔を見た桃香は、

「た、太一君のあの顔は！」

「どうかしたんですか？」

「うう、あれは私がまだ小さかった頃、太一君の名前が書いてあるアイスを私は食べちゃったんだ、その時の顔そっくり！」

「はあ、しかしそれがどうしたんですか？」

「あの顔の時の太一君は凄いだよ、当時の私はデュエル中に何もできなくて泣いちゃったくらいに」

桃香の説明にイマイチよくわかっていない面々を尻目にデュエルが始まった。

「俺のターン、フィールド魔法『森丘』を発動、更に『カンタロス（攻1000/守1200）』
を守備表示で召喚、カードを一枚伏せターンエンド」

太一

手札三枚

場

カンタロス（守）

森丘（フィールド魔）

リバースカード

一枚

「私のターン、ドロー！ 手札から『切り込み隊長（攻1200/守400）』を召喚、更に効果で『コアキメイル・ベルグザーク（攻2000/守200）』を特殊召喚だ。更に永続魔法『連合軍』で攻撃力を上げる！」

切り込み隊長

攻撃力

1200 1600

コアキメイル・ベルグザーク

攻撃力

2000 2400

「北郷君と同じ感じのデッキなのかな？」

「俺のデッキは春姉さんに無理矢理組まれたからな、ところで桃香、何で苗字なんだ？」

「……」

「えつと桃香さん？」

「何かな北郷君？」

「えつと、その、ごめんなさい」

「それは太一君に言うことじゃないかな？」

「北郷も終わったか？」

「ていうか太ーが来てから芽無しなのだ」

そんな感じに外野が盛り上がる一方、

「バトルだ！ ベルグザークでその虫を攻撃だ！」

コアキメイル・ベルグザーク

攻撃力

2400

VS

カンタロス

守備力

1200

「そしてベルグザークはモンスターを戦闘破壊したとき続けて攻撃できる、ベルグザークでダイレクトアタックだ！」

「その前にカンタロスの効果を発動、戦闘で破壊された場合デッキからカンタロスを一体特殊召喚します」

「なんだと!？」

「更に森丘の効果でモンスターが戦闘で破壊された場合このカードの上にカウンターをのせます」

森丘カウンター

0 1

コアキメイル・ベルグザーク

攻撃力

2400

VS

カンタロス

守備力

1200

「カンタロスを特殊召喚、更に森丘にカウンターがのります」

森丘カウンター

1 2

「切り込み隊長で三枚目の虫を攻撃！」

切り込み隊長

攻撃力

1600

V S

カンタロス

守備力

1 2 0 0

森丘カウンター

2 3

「エンドフェイズにベルグザークの維持コストとして手札の戦士族モンスターを見せターンエンドだ！」

春蘭

手札三枚

場

切り込み隊長（攻）

コアキメイル・ベルグザーク（攻）

連合軍（永魔）

リバース

無し

「俺のターン、ドロー。永續魔法『トレニヤー』を発動し効果を使用、ライフを300払いデッキから星4以下のモンスターを手札に加える」

太一

LP 4000 3700

「『メラルー（攻100/守100）』を守備表示で召喚、ターンエンド」

太一

手札三枚

場

メラルー（守）

トレニヤー（永魔）

森丘（フィールド魔）

リバーズ

一枚

「その程度か？ 私のターン、ドロー！ 『コマンド・ナイト（攻1200/守1900）』を召喚、まだまだ攻撃力は上がるぞ！」

コアキメイル・ベルグザーク

攻撃力

2400 3000

切り込み隊長

攻撃力

1600 2200

コマンド・ナイト

攻撃力

1200 2200

「更に装備魔法『団結の力』をベルグザークに装備、攻撃力を更に2400ポイント上昇させる!」

コアキメイル・ベルグザーク
攻撃力

3000 5400

「バトルだ! ベルグザークでその猫を攻撃!」

コアキメイル・ベルグザーク
攻撃力

5400

VS

メラルー

守備力

100

「破壊されたメラルーの効果を発動、デッキからカードを一枚ドロ
ー、更にこの効果にチェインして速攻魔法『スケープ・ゴート』を
発動、『羊トークン（攻0/守0）』を四体特殊召喚する」

「それがどうした!? モンスターで総攻撃!」

「くっ」

羊トークン

4 1

森丘カウンター

3 7

「ふん、一刀を倒したというからどれほど思ったがこの程度か、ベルグザークの維持コストで手札の戦士族を見せターンエンド」

春蘭

手札二枚

場

コアキメイル・ベルグザーク（攻）

切り込み隊長（攻）

コマンド・ナイト（攻）

団結の力（装魔）

連合軍（永魔）

「俺のターン、ドロー。……期待外れでしたか？ ならお詫びです、トレニヤーの効果を使用、ライフを500払い星6以下のモンスター一体を手札に加えます。更に森丘の効果を発動、このカードにカウンター全てを取り除きのついていたカウンターの数以下のレベルのモンスターを特殊召喚する、俺は『火竜 リオレウス（攻2500

／守1800）』を特殊召喚」

太一

LP3700 3200

「それがどうした、切り込み隊長には勝てんぞ」

「ご心配無く、更に魔法カード『竜の番』を発動、フィールドにリオレウス、またはリオレイアがいる場合発動出来ます、デッキから『雌火竜 リオレイア（攻2500／守1800）』を特殊召喚。そして仕上げです、魔法カード『ユニオン・アタック』を発動、リオレウスを対象に攻撃力を上昇」

火竜 リオレウス

攻撃力

2500 5000

「リオレウスの攻撃」

リオレウス

攻撃力

5000

VS

切り込み隊長

攻撃力

3000

「ぐ、しかしユニオン・アタックでは私にダメージは」

「入りませんね、しかし問題はありませんよ、リオレウスの効果を発動、このカードが戦闘で破壊したモンスターの攻撃力分のダメージをライフに与えます」

「何!？」

春蘭

LP 4000 1000

「そしてコレで終わりです。リオレイアの効果を発動、モンスター一体を生け贄にし元々の攻撃力の半分の値のダメージを与えます。生け贄にするのはリオレウス、よって1250のダメージです」

「へ?」

春蘭

LP 1000 0

「ムガー！ もう一回だー！」

「春姉さん往生際が悪いよ」

ギヤーギヤー言ってる春蘭さんは北郷に任せていると秋蘭さんがやってきて名刺を渡してきた。書かれているのは秋蘭さんの名前と所属しているチーム名、名前は『曹魏』、うん、予想通りだな。

「卒業しても行くところがなかったら来るといい」

「どうも」

「ほら、帰るぞ姉者」

「うう、しゅーらん」

ズルズルと引き摺られていく春蘭さん、

「く、覚えてる」

捨て台詞も忘れないようだ。

「結局、何だったんだ？」

「俺に聞くな」

さて、それじゃあ逃げようとしてる北郷を制裁するか。

火竜 リオレウス & 雌火竜 リオレイア 番の絆 カード紹介

メラルー

地属性

獣戦士族

星2

攻撃力1000

守備力1000

効果

このカードが戦闘で破壊された場合カードを一枚引く。

カンタロス

地属性

昆虫族

星3

攻撃力1000

守備力1200

効果

このカードが戦闘で破壊された場合デッキからカンタロスを一枚特殊召喚することができる。

火竜 リオレウス

炎属性

ドラゴン族

星6

攻撃力2500

守備力1800

効果

このカードが戦闘で相手モンスターを破壊した場合そのモンスター

の攻撃力分のダメージを相手ライフに与える、この効果は『雌火竜
リオレイア』が自分フィールド上にいない場合発動出来ない。

雌火竜 リオレイア

炎属性

ドラゴン族

星6

攻撃力2500

守備力1800

効果

自分フィールド上のモンスター一体を墓地に送る、そのモンスターの元々の攻撃力の半分の値を相手ライフにダメージとして与える、この効果は『火竜 リオレイア』が自分フィールド上にいない場合発動出来ない。

火竜の番

魔法カード

自分フィールド上に『火竜 リオレウス』または『雌火竜 リオレイア』がいる場合発動出来る。デッキから『火竜 リオレウス』または『雌火竜 リオレイア』一体を特殊召喚する。

森丘

フィールド魔法

モンスター（トークン含む）が戦闘で破壊された場合このカードの上にカウンターを1つのせる。このカードにのっているカウンターを全て取り除く、そうした場合除いたカウンターの数以下のレベルのモンスター一体を特殊召喚する。

火竜 リオレウス & 雌火竜 リオレイア 番の絆 カード紹介（後書き）

そろそろ古龍だそうかな

幻獣 キリン 白銀の雷

さて春蘭さんとのデュエルから数日が過ぎた頃、大地にオベリス
クブルーへの昇格の話が上がった。デュエルに勝利すれば見事オベ
リスクブルーへ昇格というわけだ。相手は最近落ち目の万丈目だ、
デュエル前にゴタゴタがいくらかあったものの大地は万丈目を倒し
た。しかし大地はオベリスクブルーへの昇格を拒否、十代を倒すま
で昇格しないということだ、らしいといえばいいか。
それはともかく

「……げほっげほっ」

風邪ひきました。冬休みの直前、炬燵にアイスを堪能していたのが
原因だろうか？ まあしかし、

「大丈夫、太一君？」

桃香に看病されているので良しとしよう。

「にやはは、太一兄ちゃんも抜けてるのだ」

「ほっとけ、てかその兄ちゃんって何だよ」

「鈴々より歳上で桃香ちゃんの幼馴染みだからお兄ちゃんなのだ」

「なんだそりゃ」

確かに年齢は俺の方が上だ、しかし学年的には俺の方が下である。

「そういえば桃香が獣族で愛紗はバニラだろ、鈴々はどんなデッキを使っただ？」

「鈴々のデッキは……説明するより見た方が早いのだ」

「説明が面倒なだけだろ」

「そ、そんなことないのだ！ 桃香ちゃん、相手して欲しいのだ」

「うん、いいよ」

「どうでもいいがお前ら、俺は病人なんだが」

「…なんていうか、すまないな」

「まあ、桃香については昔からああだし。桃香が二人になったと思えば、ハハハ」

「なんだ、元気だせ」

ケホツと咳を一つし愛紗に肩に手をのせられる、……柔らかな手でした。

そつえば桃香のデッキ、コンセプトは知ってるけど見るのは久しぶりだな。

「鈴々のターンなのだ、ドロー。『六武衆・ニサシ（攻1400/守700）』を召喚するのだ」

「鈴々は六武衆か」

アレはな、展開が速すぎて手におえなくなるんだよな。

「更に手札から『六武衆の師範（攻2100/守800）』を特殊召喚するのだ、そして『大將軍 紫炎（攻2500/守2400）』を特殊召喚するのだ！」

「ええ!？」

「いきなり展開してきたか」

「カードを伏せて鈴々はターンエンドなのだ」

鈴々

手札二枚

場

六武衆・ニサシ（攻）

六武衆の師範（攻）

大將軍 紫炎（攻）

リバーズ

一枚

「私のターン、ドロー。私は永続魔法『強者の苦痛』を発動するよ、これで鈴々ちゃんのモンスターの攻撃力は下がるよ」

ニサシ

攻撃力

1400 1000

六武衆の師範

攻撃力

2100 1600

大將軍 紫炎

攻撃力

2500 1800

「さらに『逆ギレパンダ（攻800／守1600）』を召喚するよ、効果で鈴々ちゃんのフィールド上のモンスターの数だけ攻撃力が500上がるよ」

逆ギレパンダ

攻撃力

800 2300

「鈴々ちゃんのビートが裏目に出たかな」

「そのようですね、しかし桃香さん」

「どうかしたのか？」

「いえ、いつにもまして気合いが入っているなと」

「ふーん、そんなもんかねえ」

愛紗と話してる間にもデュエルは進んでいく。

「いくよ鈴々ちゃん、逆ギレパンダで紫炎を攻撃！」

逆ギレパンダ

攻撃力

2300

VS

大將軍 紫炎

攻撃力

1800

「にゃあああ」

鈴々

LP 4000 3500

「鈴々ちゃんのモンスターが減ったから逆ギレパンダの攻撃力も下がるよ」

逆ギレパンダ

攻撃力

2300 1800

「カードを二枚セットしてターンエンドだよ」

桃香

手札二枚

場

逆ギレパンダ（攻）

強者の苦痛（永魔）

リバーズ

二枚

「にゃああ、鈴々のターンなのだ、ドロー。『六武衆の露払い（攻
1600/守1000）』を召喚するのだ」

六武衆の露払い

攻撃力

1600 1300

逆ギレパンダ

攻撃力

1800 2300

「そして露払いの効果を発動するのだ、露払い自身を生け贄に桃香
ちゃんのパンダを破壊するのだ」

「ああ、パンダさんが」

「そしてモンスターで攻撃なのだ！」

「きゃあああ」

桃香

LP 4000 400

「鈴々のターンは終了なのだ」

鈴々

手札二枚

場

六武衆・ニサシ（攻）

六武衆の師範（攻）

リバー

一枚

「うう、どうしよう。負けたくないよう」

弱音を吐く桃香、やっぱ昔と変わったのはプロポーションだけか？
そんなことは無いだろう。

「諦めんな、桃香」

「太一君、うんわかった!」

応援されるとすぐ持ち直すのも昔と同じか、てか大声出したら頭が、

「お、おい、大丈夫か?」

「無理、てか俺病人だったわ」

「忘れてたのか!?」

あ、もうだめだ。おやすみ。

「私のターン、ドロー。……このカードは、えっと、これがこうでこうだから、うん、いける!　いくよ、私は魔法カード『迷える仔羊』を発動、『羊トークン（攻0／守0）』を二体特殊召喚してターンエンド」

桃香

手札三枚

場

羊トークン（守）×2

強者の苦痛（永魔）

リバー

一枚

「鈴々のターンなのだ、ドロ。鈴々は『六武衆・ヤイチ（攻1300/守800）』を召喚、効果を発動して桃香ちゃんの右のリバーカードを破壊するのだ」

「残念でした、チェーンしてリバーカードを発動するよ『威嚇する咆哮』、このターン鈴々ちゃんは攻撃ができなくなったよ」

「じゃあ鈴々はターンエンドなのだ」

鈴々

手札二枚

場

六武衆・ニサシ（攻）

六武衆・ヤイチ（攻）

六武衆の師範（攻）

リバー

一枚

「私のターン、ドロ。私は二体のトークンを生け贄に『幻獣キ

リン（攻2800 / 守1200）『を召喚、更に魔法カード『野生解放』を発動するよ』

麒麟

攻撃力

2800 4000

「麒麟でヤイチを攻撃」

「甘いのだ！ リバースカードオープン、『炸裂装甲』、桃香ちゃんのものスターを破壊するのだ」

「残念でした、麒麟の効果を使うよ。一ターンに一度だけ相手の魔法、罠カードの発動を無効にできるんだ。更にリバースカードオープン、速攻魔法『突進』を発動、麒麟の攻撃力をさらに上げるよ」

麒麟

攻撃力

4000 4700

「鈴々の負けなのだ」

「勝ったー、太一君、私やったよ！　ってあれ？」

振り返る桃香だったがそこに探していた人物はいない、そこでやっとここに来た本来の目的を思い出す桃香、慌てて部屋に入ると、

「ZZZ」

「あ、桃香さん。こ、これはですね」

寝ている太一を膝枕している愛紗がおりました。

「愛紗ちゃん、何してるのかな？」

「こ、これは成り行きと言いますか」

「私達がデュエルしてる間に膝枕なんて、可笑しいなあ、愛紗ちゃん、太一君をそういうふうに見てないと思ってたんだけど」

「あ、あの桃香さん。口調が高町さんみたいになって」

「後で頭冷やそうか」

「桃香さん!？」

「い、恐いのだ」

この後、愛紗が膝枕役を桃香に譲ることで頭冷やされるのは免れたが今度は高町に頭を冷やされかけたらしい。

幻獣 キリン 白銀の雷（後書き）

幻獣 キリン

光属性

獣族

星7

攻撃力 2800

守備力 1200

効果

一ターンに一度相手プレイヤーの魔法・罠カードの発動を無効にすることができる。

と言うわけで古龍（？）のキリンでした。当初はクシャルダオラの予定でしたが先に出たのはこいつなので。

迅竜 ナルガクルガ 樹海に潜む影（前書き）

遅くなっ
たぜ

迅竜 ナルガクルガ 樹海に潜む影

『にゃーん』

「あ、アハハハハ」

太一です、突然ですが目の前にナルガがいます。何を言ってるのかわからないと思うが俺だってわからない（以下略）、

「これは精霊というやつだろうか？」

目の前にいるナルガの頭を撫でつつ考える、見えるようになった理由は何だ？

『にゃーん』

……ナルガが可愛すぎる件について、いやいや騙されるな。理由、理由だ、何でいきなり精霊が見えるようになったかだ。

『コロコロ』

「可愛いなあ畜生！」

（以下数時間ループ）

「ふう」

な、なんとかナルガをカードの中に戻すことに成功する。しかし精霊の見える理由なんて微塵も心当たりがない、初めから見えていたというもあるがそれだと十代の精霊も見えていた筈だ。
幾らか考えて出た結論は、

「ケセラセラ、まあなるようになるか」

げ、現実逃避じゃないからな！

でだ、この先のことなんだが何があっただろう？ 正直序盤は三幻魔を狙ってくる奴等と闇のデュアルをしたくらいしか記憶にないいや万丈目が帰ってくるんだっけ？ 何も覚えてねえ。まあ十代達が解決するから俺がどうこうする必要はあんまりないか。俺は俺で自分のことを頑張るとしよう。

『にゃーん』

「はいはい、ちゃんと使ってやるから」

ナルガのカードを撫でながら俺はデュエル場へと向かった。

「田中、デュエルだ!」

「北郷、またお前か」

デュエル場について直ぐに北郷に絡まれる。これで何度目かは忘れたが度々コイツにはデュエルを挑まれる。どうやら桃香にいいところを見せたいらしい。因みに戦績は俺が勝ち越している、更にコイツが勝つときに限って桃香はいなくなる、不思議!

「ライエローに負け越してるって噂になってるんだろ? 止めとけ」

「嫌だ!」

「……いい加減にしてほしいんだが」

結局、デュエルすることになってしまった。

「俺のターン、ドロー。手札から『シャインエンジェル（攻1400/守800）』を攻撃表示で召喚、さらにフィールド魔法『シャインスパーク』を発動、シャインエンジェルの攻撃力は上昇する」

「守備力は下がるけどな」

シャインエンジェル

攻撃力

1400 1900

守備力

800 400

「更にリバースカードを二枚伏せてターンエンドだ」

北郷

手札三枚

場

シャインエンジェル（攻）

シャインスパーク（フィールド魔）

リバース

二枚

さて今更だが北郷はデッキを戦士ビートから天使に変えた。あれか、天の御遣い繋がりか？

「俺のターン、ドロー。フィールド魔法『樹海』を発動、シャインスパークは破壊される」

シャインエンジェル

攻撃力

1900 1400

守備力

400 800

「更に『チャチャブー（攻1700/守500）』を攻撃表示で召喚、リクルーターは面倒だが仕方ない、チャチャブーでシャインエンジェルを攻撃」

チャチャブー

攻撃力

1700

VS

シャインエンジェル

攻撃力

1400

北郷

LP4000 3700

「シャインエンジェルの効果で『シャインエンジェル（攻1400

／守800）』を特殊召喚する」

「更に永続魔法『オトモアイルー』を発動、カードを伏せてターンエンド」

太一

手札二枚

場

チャチャブー（攻）

オトモアイルー（永魔）

樹海（フィールド魔）

リバーズ

一枚

「俺のターン、ドロー。シャインエンジェルを生け贄に『天空騎士
パーシアス（攻1900／守1400）』を召喚、更にパーシアス
を生け贄に『天空勇士ネオパーシアス（攻2300／守2000）』
を特殊召喚、ネオパーシアスでチャチャブーを攻撃」

ネオパーシアス

攻撃力

2300

VS

チャチャブー

攻撃力

1700

太一

LP 4000 3400

「そしてネオパーシアスの効果でドロー。よし、フィールド魔法『天空の聖域』、ネオパーシアスは攻撃力が上昇するぜ」

ネオパーシアス

攻撃力

2300 2600

「正直シャインスパークいらないか？」

「うるさい、ターンエンドだ」

北郷

手札二枚

場

ネオパーシアス（攻）

天空の聖域（フィールド魔）

リバー

二枚

「ドロー、スタンバイフェイズに墓地チャチャブーの効果を発動、

自分フィールドに『仮面トークン（攻0/守0）』を特殊召喚、メインフェイズ1開始時にオトモアイルーの効果を発動、ダイスを振って出た目で効果を決める」

ダイスの目は…… 4

「ダイスは4、よって『アイルトークン（攻100/守100）』を特殊召喚する。そして二体のトークンを生け贄に『迅竜 ナルガクルガ（攻2700/守2000）』を召喚。そして魔法カード『サイクロン』を発動、天空の聖域を破壊」

ネオパーシアス
攻撃力

2600 2300

「バトル、ナルガクルガでネオパーシアスを攻撃」

ナルガクルガ
攻撃力

2700

VS

ネオパーシアス
攻撃力

2300

「罨カード発動、『次元幽閉』、そのモンスターを除外だ！」

ネオパーシアスに跳びかかるナルガクルガの前方に裂目が出る、あわや突っ込むといったところで、

『にゃーん』

「な!？」

裂目をかわした。そのままネオパーシアスを切り裂き戻ってくるナルガクルガ。

北郷

LP 3600 3200

「ナルガクルガは自身のバトル時のみ罨カードの効果を受けない」

「相変わらずデタラメな」

「そつでもないぞ?。」

『にゃん』

「ターンエンド」

手札二枚

場

ナルガクルガ（攻）

オトモアイルー（永魔）

リバー

一枚

「くそ、俺のターンドロ……。……モンスターをセットしてターンエンド」

手札二枚

場

裏守備モンスター

リバー

一枚

「ドロー、メインフェイズ1開始時にオトモアイルーの効果を発動、ダイスロール」

目は……2

「出目は2、墓地のカード一枚をデッキに戻す、俺は樹海をデッキに戻す。さらに『キングチャチャブー（攻2000/守800）』を召喚、更に手札から魔法カード『テラフォーミング』を発動、デッキからさっきの樹海を手札に加え発動」

発動した瞬間ナルガクルガの姿が樹海に消える。まあダイレクトアタックできるわけではない。

「バトル、ナルガクルガでセットモンスターを攻撃」

「甘いぜ！ セットモンスターは『マシユマロン（攻300/守500）』だ！ 戦闘でコイツは破壊されずセットされていたこのカードが戦闘で表になった時に1000ポイントのダメージを与える！」

ナルガクルガ

攻撃力

2700

VS

マシユマロン

守備力

500

太一

LP 3400 2400

『にゃーん』

「ああ、気にすんな。キングチャチャブーで攻撃、コイツは貫通効果あるぞ」

キングチャチャブー

攻撃力

2000

VS

マシユマロン

守備力

500

北郷

LP 3200 1700

「キングチャチャブーは攻撃した場合バトル終了時に守備表示になる。さらに表示形式を変更できるのは次の次の俺のターンだ。そしてターンエンド」

太一

手札二枚

場

ナルガクルガ（攻）

キングチャチャブー（守）

樹海（フィールド魔）オトモアイルー（永魔）

リバーズ

一枚

「俺のターン、ドロー。よし、俺は速攻魔法『光神化』を発動する。手札の『アテナ（攻2600/守800）』を攻撃力を半分にし特殊召喚だ」

アテナ

攻撃力

2600 1300

「そしてリバーズカード、『地獄の暴走召喚』を発動。アテナを更に二体特殊召喚だ」

「こっちは『キングチャチャブー（攻2000/守800）』を特殊召喚だ」

「アテナB・Cが特殊召喚された瞬間アテナAの効果を発動」

「チェインして『激流葬』を発動、フィールド上のモンスターを全て破壊だ」

「な!？」

太一

LP 2400 1800

「くそ、でもお前のモンスターだって」

「ところがどっこい、樹海の効果を発動。獣族モンスター、またはナルガクルガが破壊された時樹海を墓地に送り破壊を無効にする」

『ふにゃ!』

「……ターン、エンドだ」

北郷

手札一枚

場

無し

リバース
無し

「俺のターン、ドロ。メインフェイズにオトモアイルーの効果を発動、ダイスロール」

出目…… 6

「出目は6、よってオトモアイルーは破壊される。まあ問題ないか」
リバースカードは無し、これで終わりかな。

「バトル、ナルガクルガで攻撃」

『にゃん!』

北郷

LP 1700 0

「ちくしょー!! 何で勝てないんだー!？」

「太ーく〜ん」

「桃香!？」

北郷が勝てないとき必ず桃香がそこにいる、つまりはそういつつとだ。

迅竜 ナルガクルガ 樹海に潜む影（後書き）

時間軸は十代VS三沢の少し前

迅竜 ナルガクルガ 樹海に潜む影 のカード紹介

チャチャブー

地属性

獣戦士族

星4

攻撃力1700

守備力500

効果

このカードが戦闘で破壊された場合次の自分のスタンバイフェイズ開始時に『仮面トークン（攻0/守0）』1体を特殊召喚する。

キングチャチャブー

地属性

獣戦士族

星4

攻撃力2000

守備力800

効果

このカードが表側守備表示モンスターを攻撃した時守備力を越えている数値だけ戦闘ダメージを与える。このカードが戦闘を行なった場合そのダメージステップ終了時にこのカードは守備表示になる、このカード表示形式は次の次の自分のターンまで変更出来ない。

迅竜 ナルガクルガ

地属性

ドラゴン族

星8

攻撃力2700

守備力2000

効果

このカードが攻撃宣言した場合ダメージステップ終了までこのカードは罨カードの効果の対象にならない。

オトモアイルー

永続魔法

効果

自分のメインフェイズ1開始時にサイコロをふる、でた目によって以下の効果を使用する。

- 1……デッキからカードを一枚ドローする。
- 2……墓地のカード一枚をデッキに戻す。
- 3……相手モンスター一体を破壊する。
- 4……『アイルートークン（攻100/守100）』一体を特殊召喚する。
- 5、6……このカードを破壊する。

樹海

フィールド魔法

効果

自分の獣族モンスター、またはナルガクルガが破壊された時このカードを墓地に送る。その場合獣族モンスター、またはナルガクルガ一体の破壊を無効にする。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8063m/>

凄く、ごった煮です。

2011年10月7日13時56分発行